

平成 17 年 1 月 27 日

報道関係各位

東燃ゼネラル石油株式会社
東京都港区海岸一丁目 16 番 1 号
代表取締役会長兼社長
ジー・ダブリュー・プルーシング
(コード番号: 東証一部 5012)
お問い合わせ先
エクソンモービル有限会社
広報渉外部
Tel: 03-5425-9000

東燃ゼネラル石油(株)平成 16 年 12 月期 業績予想修正に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 16 年 11 月 18 日に発表した平成 16 年 12 月期(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)の連結および単体業績予想を下記の通り、修正致しましたので、お知らせします。

1. 平成 16 年 12 月期(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)業績予想

連結業績予想：

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
今回修正予想 (A)	23,423	632	686	482
前回発表予想 (B)	23,300	510	550	390
増減額 (A-B)	123	122	136	92
増減率 (%)	0.5	23.9	24.7	23.6

(B)平成 16 年 11 月 18 日発表

単体業績予想：

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
今回修正予想 (A)	23,705	425	523	405
前回発表予想 (B)	23,600	320	400	320
増減額 (A-B)	105	105	123	85
増減率 (%)	0.4	32.8	30.8	26.6

(B)平成 16 年 11 月 18 日発表

2. 修正の理由

平成 16 年 12 月期の連結営業利益は、前回予想より 122 億円増の 632 億円となる見通しです。今回の修正は主に以下の要因によるものです。

(1) 製品マージンの増加

燃料の販売数量は、主として暖冬の影響により、平成 16 年 11 月時点での予想と比較して若干減少しましたが、全体としての石油製品マージンは、特に 11 月に大きく改善したことを受け、前回予想を上回る結果となりました。また、活発な需要を反映した、特に芳香族系製品を中心とする石油化学部門の好業績により利益は押し上げられました。

(2) 経費の削減

経費の削減が前回予想より幾分進んだ結果、営業利益の増益要因となりました。

(3) 在庫評価の影響

平成 16 年 11 月時点での予想では在庫評価の影響を見込んでいませんでしたが、後入先出法に基づく低価法による在庫評価の結果、平成 16 年 12 月期(平成 16 年 1 月 1 日～12 月 31 日)において、評価損(約 11 億円、但し、キャッシュ・フローへの影響はなし)が発生しました。

平成 16 年 12 月期の単体経常利益は、前回予想より 123 億円(30.8%)増の 523 億円となる見通しです。これは前述の要因により前回予想を上回ったこと、ならびに営業外利益が、特に為替差益の影響により前回予想から増加したことによるものです。

配当予想

平成 16 年 12 月期の期末配当に関しては、取締役会ならびに株主総会の決議事項ではありますが、通期の業績、キャッシュ・フローを考慮した上で、平成 16 年 12 月 31 日現在の株主に対し、1 株当たり 18 円を支払うことを予定しています。一株当たり年間 36 円の配当予想に関しては、変更ありません。

以上